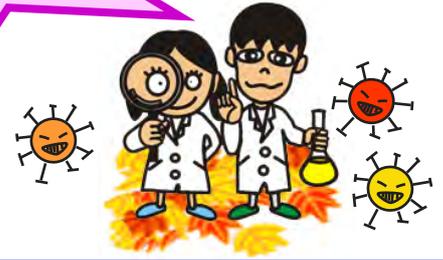


# 感染症に気をつけよう!

2018年【11月号】

## 横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号】  クリック
風しん**	 多発	 横ばい	患者のうち予防接種を受けたことがない、または、接種不明の人が9割以上です。【'18.10号】
伝染性紅斑** (リンゴ病)	 やや流行	 横ばい	2017年11月上旬から増加傾向になり、例年と比べて報告が多い状態が続いています。【'18.7号】

## 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。例年、12月～3月が流行シーズンです。



普通の風邪とは違います。  
38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が、急に出るのが特徴です。  
重症になる例もみられ、十分な注意が必要です。



インフルエンザワクチン\*\*は感染後に発症する可能性を低くする効果と、発症した場合の重症化を防止する効果が報告されています。かかりつけ医に相談しましょう。



予防の基本は、正しい手洗いの習慣\*\*です。かかったかな?! と思ったら、咳エチケット\*\*を守り早目に受診してください。重症化を防ぐため、また、他の人にうつさないためにも、無理をせず学校や仕事は休みましょう。



【参考ホームページ】

\*: 国立感染症研究所 \*\*: 厚生労働省 [横浜市衛生研究所](#) 感染症・疫学情報課 [【横浜市感染症情報センター】](#)